

日本臨床検査医学会 2017年度 第4回理事会 議事録

日 時：2017年12月23日（土）13：30～16：30

場 所：日本臨床検査医学会事務所

出 席：矢富 裕 理事長、山田俊幸 副理事長、村上正巳 総務理事、諏訪部 章 会計理事、東條尚子 庶務理事、前川真人、小柴賢洋、宮地勇人、メ谷直人、木村 聡、戸塚 実、柴田綾子、下 正宗、清水 力、賀来満夫、本田孝行、石井潤一、通山 薫、各理事
尾崎由基男、高木 康 各監事（20名）

欠 席：一山 智、岡山昭彦 理事（2名）

会に先立ち、矢富裕理事長から挨拶があり、定款（議事録）第33条2.により出席した理事長、副理事長および監事が議事録署名人となる説明があり、理事会の議事を進めた。

I 報告事項

1. 支部報告

各支部報告の2017～2018年度の支部例会・総会・地方会の開催および活動報告、予定等について報告された。

II 各種委員会報告

1) 学術推進化委員会（前川真人 担当理事）

第64回学術集會中の2017年11月16日（木）に国立京都国際会館で委員会を開催した。平成28・29年度学術推進プロジェクト研究採択4課題の中間報告を受けたこと、平成30年度から学術推進プロジェクト研究募集は毎年募集し、3件以内を採択、研究費は一件100万円に統一、採択時に全額を一括で支給すること、研究課題は、(1)病態解析領域における独創的あるいは先進的検査技術の開発、(2)予防医学関連領域における独創的あるいは先進的検査技術の開発、(3)日常検査技術の開発・改善、あるいは問題点の解決に向けての取り組み(臨床検査技師からの申請を奨励する)としているが、平成31年度以降臨床検査技師から申請される研究課題は、(3)のみに限定せず、いずれでもよいと募集要項に明記すること、また、学術集會におけるYoung investigator awardの創設についての検討をし、継続審議することが報告された。

2) 編集委員会（村上正巳 担当理事）

2017年12月1日に学会事務所で委員会を開催した。編集委員会内規を検討し、会則改定委員会に提出したこと、メテオ「メディカルオンライン著作権許諾サービス」による論文内容転載許諾代行について検討し、費用等を確認したうえで今後継続審議すること、任期満了委員5名の後任委員候補者の推薦を依頼したこと、トピックスの進捗状況の確認と立案、投稿原稿の検討をしたことが報告された。

3) 教育委員会（本田孝行 委員長、山田俊幸 担当理事）

第64回学術集會中の2017年11月18日（土）に国立京都国際会館で委員会を開催した。RCPCについては、学術集會においてRCPCを2症例継続して行うこと、関東甲信越支部、近畿支部は、総会・例会時に開催すること、他支部が実施する場合は委員会で協力すること、Catch up セミナーについては、学術集會においてセミナー3講演を開催すること、学術集會での若手と女性の会のイベントはワークライフバランス委員会に任せ、教育委員会は共催参画とすること、e-learning については詳しいメンバーで新しい部門設立を考えること、e-learning システム導入については、RCPC 2症例、Catch up セミナー3演題をWebにて配信するシステムを構築したこと、遺伝子委員会からの遺伝子検査精度管理教育の要望については、遺伝子教育は遺伝子委員会で検討いただき、教育委員会としてはCatch up セミナーなどの機会を提供することが報告された。

4) 臨床検査点数委員会（東條尚子 担当理事）

第64回学術集會中の2017年11月17日（金）に国立京都国際会館で専門医会保険点数委員会と合同委員会を開催した。平成30年度診療報酬改定に向け、2017年3月31日内保連へ臨床検査医学会より42件、臨床検査専門医会より19件を内保連医療技術評価提案書として提出し、2017年7月21日に厚労省担当技官とのヒアリングが行われたこと、2017年8月22日に厚生労働省、臨床検査振興協議会・診療報酬改定小委員会との勉強会が開催されたこと、厚生労働省での検体検査の精度管理等に関する検討会の開催と第1回検討会の議論内容、2017年11月14日に臨床検査専門医会が免疫電気泳動に関するアンケートを実施したこと、アマーバ赤痢の体外診断用キットが事前に疑義解釈委員会などへの報告なく、ベンダーより一方的に供給停止となり、現在保険収載されている診断薬が

ない状態となっていることが報告された。

5) 標準化委員会（前川真人 担当理事）

第 64 回学術集会中の 2017 年 11 月 18 日（土）に国立京都国際会館で委員会を開催した。厚労省への提出文書「甲状腺機能検査 TSH の国際標準化の要望書」については、値の変更幅が小さい TSH について、まず“届出”希望として提出することとし、各メーカーには内容確認済であり、今後関係学会の理事会に賛同いただくこと、JCCLS 共用基準範囲に基づく“医学教育用基準範囲”の設定については、JCCLS より公開しパブリックコメントを求め、ヨーロッパ各国・米国 FDA の法的・制度的問題から、標準化は遅延しているため、日本先行で標準化を行なうこと、HbA1c の際は日本糖尿病学会主導であったため、今回も学会主導で行なうことが報告された。

6) EBLM 委員会（小柴賢洋 担当理事）

第 64 回学術集会中に国立京都国際会館で EBLM 教育セミナーを開催した。「統計の基礎からデータベース入門」をテーマとし、120 人以上の参加があったこと、EBLM 委員会シンポジウムでは、「医療ビッグデータ解析時代を支える EBLM 研究の目指す方向性」を主テーマとし、人工知能、標準化、疾患レジストリー、検査精度の視点で、今後の EBLM 領域の在り方について協議したことが報告された。

7) 倫理委員会（通山薫 委員長、諏訪部章 担当理事）

「臨床検査を終了した残存検体（既存試料）の業務、教育、研究のための使用」改訂案を作成中で、第 64 回学術集会で、医療倫理シンポジウム「検体の取扱いと研究倫理の最前線」を開催し、その議論を経て最終答申案を作成することが報告された。

8) 利益相反委員会（諏訪部章 担当理事）

第 64 回学術集会中の国立京都国際会館で委員会を開催した。2017 年度日本医学会「COI 管理ガイドライン」改定に伴い、当学会の COI に関する指針および細則の改定、各種 COI 自己申告書の改定、その他（ホームページの案内文等）について検討し改定版を作成したこと、役員等の COI 自己申告書は、対象者 170 名中 151 名が提出済みで提出率は 89%であることが報告された。

9) ガイドライン作成委員会（東條尚子 担当理事）

第 64 回学術集会中の 2017 年 11 月 16 日（木）に国立京都国際会館で委員会を開催した。臨床検査のガイドライン JSLM2018 製作について、2017 年 6 月：執筆依頼、2018 年 2 月：入稿締め切り、2018 年 6 月：査読終了、刊行：2018 年 10 月のスケジュール確認をしたこと、「日常初期診療における臨床検査の使い方」アドホック委員会を開催したことが報告された。

10) 広報委員会（小柴賢洋 委員長、木村 聡 担当理事）

第 64 回学術集会中の 2017 年 11 月 18 日（土）に国立京都国際会館で、広報委員会、ワークライフバランス委員会、新専門医制度広報アドホック委員会、臨床検査専門医会広報委員会の合同会議を行った。新専門医制度に対応して HP から専攻医登録システムにアクセスできるようになっていること、専門医試験に関する内容（セミナー申込時期、受験準備、合格者の体験談など）について試験委員会と相談しながら HP 掲載を検討していること、月刊誌「レジデントノート」誌に「臨床検査専門医がコソコソ教える…検査の Tips！」を連載していることが報告された。

11) 臨床検査室医療評価委員会（村上正巳 委員長）

第 64 回学術集会中の 2017 年 11 月 19 日（日）に国立京都国際会館で委員会を開催した。ISO 15189 認定施設に対するアンケートには 103 施設からの回答があり、その調査結果については 11 月 16 日に開催された全国検査部長・技師長会議で報告したこと、今後、日本適合性認定協会（JAB）への要望をまとめること、ホームページへの掲載、「臨床病理」への掲載について検討することが報告された。

12) 遺伝子委員会（前川真人 委員長、宮地勇人 担当理事）

2017 年 10 月 29 日（日）に学会事務所で委員会を開催し、本年 6 月のがんゲノム医療推進コンソーシアム懇談会報告書、10 月のがんゲノム医療中核拠点病院等の整備に関する指針では、検査の分析的妥当性の記述がないため、厚労省等に対する提言書案の検討を行った。

第 64 回学術集会中の 11 月 18 日（土）に国立京都国際会館で委員会を開催した。提言書「ゲノム医療における検体検査の品質確保に関する提言（がんゲノム医療推進を踏まえて）」は、理事会で承を得たため、学会ホームページ

に掲載したこと、提言書については、宮島議員、間野先生（東大）に説明し、厚労省健康局、関連する学会（臨床検査関連学会・団体、病理学会、がん関連学会など）に配信し、今後、日本医師会、日本臨床衛生検査技師会、PMDA、メディアへ配信予定であること、遺伝子委員会ホームページのコンテンツについて検討したこと、ゲノム医療関連情報について共有したことが報告された。

13) 会則改定委員会（東條尚子 委員長、〆谷直人 担当理事）

2017年4月1日から全面施行となった改正個人情報保護法に合わせ、個人情報取扱規程の改正案を野澤孝志会計顧問に確認のうえ策定したこと、編集委員会から検討依頼があった「編集委員会内規・運用規則」を策定したこと、各支部規約の内容を確認中であることが報告された。

14) チーム医療委員会（諏訪部章 委員長、柴田綾子 担当理事）

第63回学術集会中の11月18日（土）に国立京都国際会館で委員会を開催した。11月19日（日）午後には開催した委員会企画シンポジウムで、パニック値実態調査アンケート結果報告をしたこと、なお、集計結果は協力施設に送付予定であること、そして、委員会のホームページで公開し、「臨床病理」に原著として投稿予定であること、今後の在宅医療と臨床検査取り組みについて協議したこと、ホームページの掲載内容、平成30年度・31年度の委員と今後の活動について、第65回学術集会（東京）での委員会企画シンポジウムとして、「在宅医療と臨床検査」を取り上げることが報告された。

15) 学術集会企画委員会報告（木村 聡 担当理事）

第64回学術集会中の11月17日（金）に国立京都国際会館で委員会を開催した。第65～67回学術集会でのシンポジウム等の企画について、2016年12月に評議員からのアンケート調査集計結果を基にプログラム案について議論したこと、第65回学術集会における特別講演、シンポジウム等の（案）が示されたこと、非会員の講師等への費用負担について委員会主催の講演やシンポジウムに際して、当会非会員が講演者となった場合の謝礼や交通費等は、基本的に学術集会の負担とするが、学術集会長が当会で負担すべきと判断した場合は、理事長宛に要望書を提出し理事会に上申する案が報告された。

16) ワークライフバランス委員会（山田俊幸 担当理事）

第64回学術集会中にワークショップ「新専門医時代～臨床検査専門医が考えていくべきこと～」(ワークライフバランス委員会主催、日本医師会・教育委員会共催)を開催したこと、また、ワークライフバランス委員会・新専門医制度広報アドホック委員会・広報委員会合同委員会を開催し、来年度の活動案件と役割分担について協議したこと、ワークライフバランス委員会および新専門医制度広報アドホック委員会への新委員を追加予定であることが報告された。

17) 検査項目コード委員会（〆谷直人 担当理事）

2017年度に委員会を3回開催したこと、JLAC10の新規登録として、分析物コード12件、識別コード16件、結果識別（固有）コード50件を実施したこと、一般財団法人医療情報システム開発センター（MEDIS）が厚生労働省から受託した「臨床検査マスター普及に向けた調査・研究等一式」（納期2018年3月）に協力することが報告された。

3. 第64回学術集会報告（京都 2017/11/16(木)～19(日)）（村上正巳 会長）

2017年11月16日（木）～19日（日）に、国立京都国際会館（京都）において、テーマ「次世代の医療の進歩への貢献」(Contribution to Medical Innovation of the Next-Generation)として第64回学術集会を、11月14日（火）～17（金）に第29回世界病理学・臨床検査医学会連合会議（The 29th World Congress of World Association of Pathology and Laboratory Medicine (WASP aLM)）を合同会議として開催し、総計1,996名の参加者を得て、無事終了したことが報告された。

4. 第65回学術集会報告（東京 2018/11/15(木)～11/18(日)）（東條尚子 庶務理事）

2018年11月15日（木）～11月18日（日）に、京王プラザホテル（東京）において、村田満会長（慶應大）のもと「新しい医療を支える検査の力」をテーマに開催予定であることが報告された。

5. 第66回学術集会報告（岡山 2019/11/21(木)～11/24(日)）（通山 薫 会長）

2019年11月21日（木）～11月24日（日）に、岡山コンベンションセンター（岡山）において、通山薫会長

(川崎医大)のもと開催予定であり、学術集会企画委員会での協議内容に基づき企画していくことが報告された。

6. WASPaLM 報告 (村上正巳 WASPaLM 会長)

11月14日(火)～17日(金)に第29回 WASPaLM World Congress が開催された。2017-2019年度役員、2018年10月21～22日にイタリア、カタールで次回理事会が、2019年9月19～21日に第30回 WASPaLM World Congress が中国のシーアンで開催されることが報告された。

7. ASCPaLM 報告 (宮地勇人 ASCPaLM 理事)

第29回 WASPaLM World Congress 中に ASCPaLM 理事会が開催された。2018年9月6～9日にモンゴル、ウランバートルで次回 ASCPaLM Congress が、2022年には日本で開催されることが報告された。なおモンゴル開催で当会からの助成金を希望する場合は、事前に請求書をいただくよう要請した。

8. 遺伝子委員会「がんゲノム医療推進に関する提言」について (宮地勇人 担当理事、前川真人 委員長、矢富 裕 理事長)

現在、がんゲノム医療推進の政策実装が進んでいるが、臨床的有用性等とともに重要視されるべき臨床検査として扱うべき遺伝子パネル検査を行う際の分析的妥当性、施設要件については言及されていないため、ゲノム医療における検体検査の品質確保に関する提言(がんゲノム医療推進を踏まえて)を作成した。厚生労働省健康局がん・疾病対策課、関連する学会等に本提言書を送付し関係者への周知依頼をしたことが報告された。

9. 次期理事長、理事・監事、今後の手続きについて (高木 康 監事、東條尚子 庶務担当理事)

次期理事長予定者の選出に関する申し合わせ事項に則り、次期理事候補者から次期理事長予定者の立候補を募り、次期理事候補者による選挙により次期理事長予定者を決定することが報告された。

10. 臨床検査のガイドライン JSLM2015 の訂正について (東條尚子 担当理事)

臨床検査のガイドライン JSLM2015 の一部に、編集担当による記載ミスが報告され、ホームページ、文書等でお知らせする予定であることが報告された。

11. 支部規約について (会則改定委員会 〆谷直人担当理事、東條尚子 委員長)

各支部から最新の支部規約の提出を求め、会則改定委員会にて支部規約雛形、当会細則との整合性等の確認を行い、修正すべき箇所があれば、支部に修正依頼をすることが報告された。

12. その他

特になし。

Ⅲ 審議事項

1. 委員会委員の追加について (矢富 裕 理事長、山田俊幸 担当理事)

ワークライフバランス委員会、新専門医制度広報アドホック委員会、新専門医制度研修プログラム認定委員会、新専門医制度更新資格審査委員会の委員追加の提案があり、承認された。

2. 個人情報取扱規程について (会則改定委員会 〆谷直人 担当理事、東條尚子委員長)

個人情報取扱規程について、マイナンバー関連法に合わせた改定案が提示され、承認された。

3. COIに関する指針・細則・自己申告書等の修正案、COI申告書の確認について (利益相反委員会 諏訪部章 担当理事)

日本医学会 COI 管理ガイドラインの改定に伴う、当会の COI に関する指針、細則、自己申告書、COI 申告書の改定案が提示され、承認された。

4. 編集委員会内規・運用規則について (会則改定委員会 〆谷直人 担当理事、東條尚子委員長)

編集委員会で作成し会則改定委員会を確認した編集委員会内規・運用規則が提示され、承認された。

5. 臨床検査を終了した残余検体の業務, 教育, 研究のための使用について 見解 2017 改訂案 (倫理委員会 諏訪部章 担当理事、通山 薫 委員長)

臨床検査を終了した残余検体の業務、教育、研究のための使用について 見解 2017 改訂版が提示され、承認された。今後、臨床病理、ホームページで公開する。

6. 臨床検査医学講座の在り方と教授の選考にあたって-日本臨床検査医学会の考え方-について (矢富 裕 理事長)
臨床検査医学講座の在り方と教授の選考にあたって-日本臨床検査医学会の考え方-について、臨床検査専門医が条件とされているが、現在は臨床検査医学講座維持が重要であるため、現状に合わせて改訂することが諮られ承認された。今後、常任理事会で検討し、次回以降の理事会に提案する。

7. 検体検査の精度管理等に関する検討会について (矢富 裕 理事長、村上正巳 理事)
厚生労働科学特別研究事業として検体検査の精度管理に関する検討会が開催されていること、厚生労働省のホームページに議事録が掲載されていることが報告された。臨床検査室医療評価委員会を通じて当会へのフィードバックする方針とした。

8. 支部総会、例会、地方会開催報告等について (矢富 裕 理事長)
各支部の理事会報告は開催予定のみとしているが、支部総会、例会、地方会等の終了後に参加者等を次回の理事会以降に報告することが提案され、承認された。また、支部のホームページの充実の検討依頼がなされた。

9. 甲状腺機能検査 TSH の国際標準化の要望書厚生労働省への提出について (標準化委員会 前川真人 担当理事、矢富 裕 理事長)
標準化委員会 (菱沼昭委員長、前川真人担当理事) において、甲状腺機能検査 TSH 検査値の国際標準化を議論し、日本の検査試薬販売 10 社の承諾を得たため、厚生労働省担当悪部署への要望書提出が提案され、承認された。

10. 学術集会時における非会員演者の謝礼・交通費の負担について (学術集会企画委員会 諏訪部章 担当理事、矢富 裕 理事長)
当会学術集会での委員会主催の講演やシンポジウムで、当会の非会員が講演者となった場合の謝礼や交通費等の費用負担については、基本的に学術集会の負担とするが、学術集会長が「学会が支払うべき」と判断した場合は、理事長に要望書を提出することが提案され、承認された。学会同士の共催シンポジウム等については、今後、協議する。

11. 評議員の再任について (2018/01/01 付) (矢富 裕 理事長)
2018 年 1 月 1 日付での評議員再任対象者 38 名について、32 名から申請され、再任単位を満たしており承認された。2 名からは評議員辞退の連絡があり理由を確認し致し方ないと承認された。未提出者 4 名については、評議員 (社員) 再任の意志と取得単位について、該当支部が再確認することとなった。

12. 新専門医制度について (山田俊幸 副理事長、専門医担当理事)

1) 現状

プログラム研修登録が 4 名であること、専攻医の二次登録の場合、ID 登録の変更が必要なことが報告された。

2) 現行制度の対応 (認定研修施設など)

2017 年 4 月以降は、新専門医制度での研修 (プログラム制かカリキュラム制による) となるため、日本臨床検査医学会認定研修施設については、研修者が不在の場合、日本専門医機構の基幹施設、連携施設は申請不要とする提案があり、承認された。

3) 試験問題の公開

審議会で協議し、臨床病理に掲載する方向となり、MCQ、実技問題の何れにするか、また、解説を付記するかどうか等を検討すること、公開する内容を試験委員会、教育委員会が素案を作成すること、また、模擬試験、試験解答、教育研修のテキストについても同様に検討することが報告された。なお、病理学会では、出題された疾患を公表していることが報告された。

4) e-learning

現在 63 名の申請があることが報告された。掲載されている講習のほか、適切なものがあれば掲載を検討していくこととなった。

・その他 (矢富 裕 理事長)

試験委員会と試験実行委員会は、2018 年度実施の臨床検査専門医認定試験に関する検討を 2018 年 1 月からスター

トするため、試験委員会の委員長、委員、試験実行委員長は継続、試験実行委員は早めに決定し活動を行うことへの理解が求められ、承認された。

13. バーチャルスライドの学会間の相互利用について（矢富 裕 理事長、宮地勇人 試験委員会委員長）

日本検査血液学会とのバーチャルスライドの相互利用について検討され、使用料などが発生する場合は協議したうえで、お互い協力していくことが承認された。

14. 日本医用マスペクトル学会からの相互共催シンポジウム開催の要望について（矢富 裕 理事長）

日本医用マスペクトル学会から、学術集会での相互シンポジウム開催の要望があったことが報告され、今後、開催していくことが承認された。

15. 報道機関の取材について（矢富 裕 理事長）

関係する報道機関に、広報という意味で、学術集会、その他について可能な限り取材を受け、掲載する際には、事前確認をすることとなった。

16. ホームページについて（矢富 裕 理事長）

当会活動を広く周知するため、一層ホームページを充実させていくため、委員会活動の報告掲載、学会の指針、見解、考えをより閲覧し易い方法での掲載を考えているが、その他、よいアイデアの提案が依頼された。

17. その他（矢富 裕 理事長、東條尚子 庶務担当理事）

当会職員の宮尾愛子氏産休のため、代替のパート雇用の小川裕康氏は、雇用契約では賞与支給無しであるが、これまでの貢献に特別手当を支給したい旨提案され、承認された。

2018年度の第1回理事会（現と新）、定時社員総会（2018年3月24日（土）、於 学士会館）予定が報告された。

2018年度第1回 理事会（現理事・監事）： 11：00～13：00

2017年度に係わる定時社員総会： 13：00～14：00

2018年度 第1回理事会（新理事・監事）： 14：00～14：15

2017年度に係わる定時社員総会： 14：15～14：30

2018年度 第1回理事会（新理事・監事）： 14：30～15：30

新旧理事・監事の懇親会： 15：30～16：3

VI 閉会の挨拶（山田俊幸 副理事長）

山田俊幸副理事長から閉会の挨拶があり、2017年度第4回理事会は閉会された。

以上の決議を明確にするため、この議事録を作成し、出席理事長、副理事長及び監事がこれに記名押印する。

2018年2月7日

一般社団法人 日本臨床検査医学会 理事会

議長 理事長 矢富 裕



副理事長 山田 俊幸



監 事 尾崎 由基男



監 事 高木 康

